

昭和 56 年 度

秋田県環境技術センター年報

第 9 号

秋田県環境技術センター

は し が き

昭和56年度は国の行財政のみなおしが叫ばれた年であり、国民生活の安定向上を図るため、とりわけ国民の健康増進施策が問われた年であります。

本県においても能代火力発電所の建設進行や船川港の国家石油備蓄基地設置が検討され、県民生活に深いかかわり合いが生じて参りました。

環境保全対策としては、「健康で暮しよい生活を実現するために」という課題のもとに公害の発生防止、環境破壊の未然防止に重点を置き諸施策が進められました。

なかでも閉鎖性水域の一つである八郎潟調整池の富栄養化の調査は2年目を迎えいよいよ軌道にのりつつあります。

また二酸化硫黄の植物影響調査、土壤汚染調査等継続的に調査研究を重ねているもののほか、環境監視網の整備充実を図っております。

このたび昭和56年度年報第9号を皆様にお届けすることとなりましたのでご高覧のうえご批判ご指導を賜れば幸いと存じます。

昭和58年1月

秋田県環境技術センター

所長 園 部 孝 雄